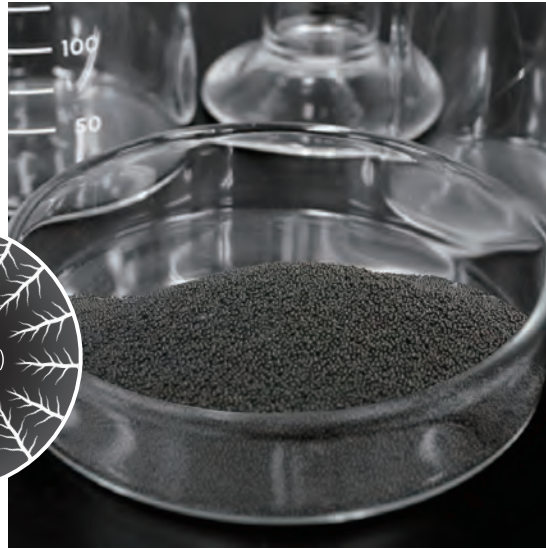
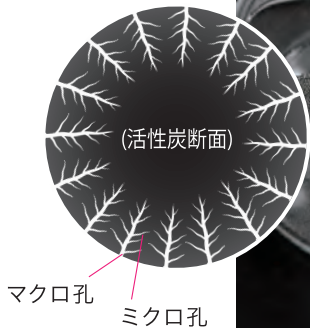


合成高分子を自然物に回帰させる、画期的製法の「球状活性炭」の独特な物性が並外れた吸着性を発揮！



「人工酵素入球状活性炭」を壁クロスの層間に担持、「臭いの吸着効果」を半永久的に保持します。
(オプション)

ペットボトルを炭化し再利用。
比表面積1,000~2,000m²/g。

マクロ孔に人工酵素を担持させ炭素シートの間で挟む事でアンモニア、ホルムアルデヒドなどの有害な悪臭を吸着・分解を半永久的に行います。廃プラの8割を減容し、2割を炭として再利用します。CO2を排出せず、環境に優しく安全な商材に生まれ変わります。

活性炭(人工酵素入)・吸着分解試験データ ※人工酵素入り活性炭はオプションです。

検体及び対照品をそれぞれに臭い袋に入れ、ヒートシールを施した後、空気9Lを封入し、設定したガス濃度となるように試験対象ガスを添加。これを経過時間ごとに袋内のガス濃度をガス検知管を用いて測定。また、検体及び対象品を入れずに同様な操作をしたものを空試験を実施。

■悪臭の吸着分解試験(人工酵素入り) 2016.12.02 日本食品分析センター

表-1 アンモニアの試験結果(1回目) (単位: ppm)

試料区分	経過時間				
	10 min	30 min	1 h	3 h	6 h
検体	39	17	12	8	6
対照品	62	59	54	47	40
空試験	100	97	96	90	84

初期ガス濃度: 約100 ppm

表-2 アンモニアの試験結果(2回目) (単位: ppm)

試料区分	経過時間				
	10 min	30 min	1 h	3 h	6 h
検体	40	22	18	15	11
対照品	62	56	55	51	49
空試験	100	98	95	89	83

初期ガス濃度: 約100 ppm

表-1 アンモニアの試験結果(1回目)

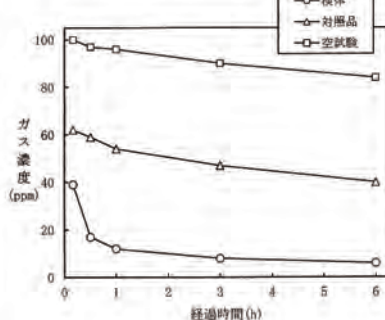
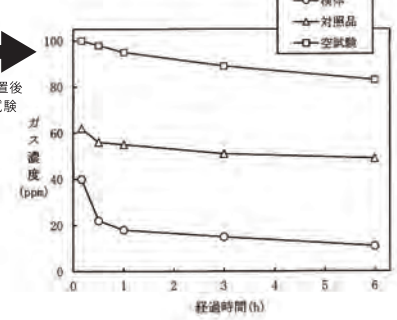
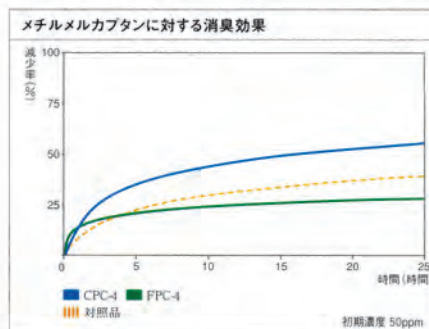
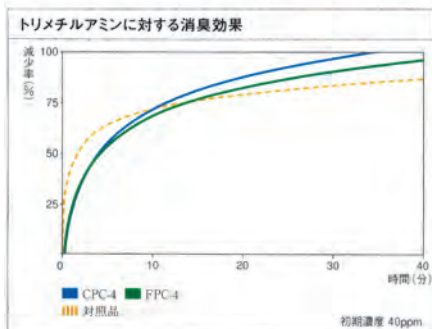
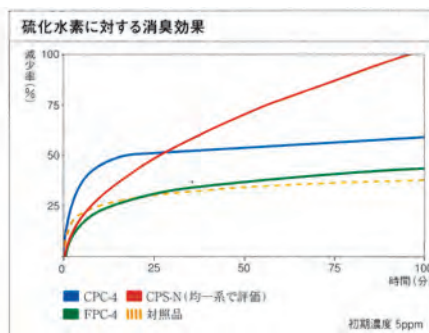
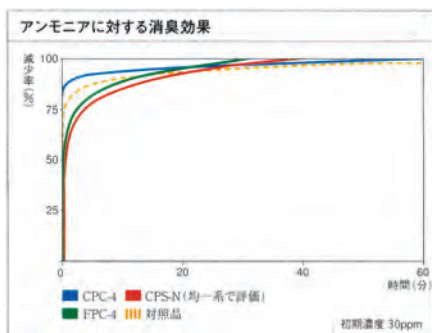


表-2 アンモニアの試験結果(2回目)



活性炭(人工酵素入)・吸着分解試験データ



■試験方法

・人工酵素(粉末)

それぞれの原体粉末0.1gを10cm×10cmの大きさのろ紙上に、できるだけ均一に付着させたものをサンプルとした。対象として、既に同系の消臭材として知られている、鉄系フタロシアミンの原体粉末を、同様に処理しサンプルとした。

・消臭評価

初期濃度は生活臭として人が感じる閾値に近い濃度として、4大悪臭のアンモニアは30ppm、硫化水素は5ppm、メチルカブタンは50ppm、トリメチルアミンは40ppmを初期濃度としてテドラバック中に置き、時間ごとに検知管法を用いて評価した。